

第二部

災害復興支援活動報告

1. 災害復興支援ボランティア委員会の取組

本学では、2011年3月に発生した東日本大震災（以下、「震災」という。）の復興支援活動として、震災直後の6月より、被災地までボランティアバスを運行するなど積極的に取り組んできました。この復興支援活動の検討を担ってきたのが「東日本大震災等復興支援プロジェクト」で2020年度をもってその役割を終えました。

震災以降、全国各地では、毎年のように豪雨や地震などの自然災害が頻発しており、そのたびに、地域住民の生活や尊い人命が奪われるといった甚大な被害をもたらしています。そして、今後も豪雨や南海トラフ地震をはじめとする自然災害発生の可能性が高まっているとの警鐘が鳴らされています。

このような状況に鑑みて、本学として災害復興支援に係るボランティア活動の内容や実施を検討する体制整備の必要性を確認し、災害復興支援の検討を担う組織として、担当副学長を長とする「災害復興支援ボランティア委員会」（2021年4月1日）を設置しました。

災害復興支援ボランティア委員会の概要

【職務と審議事項等】

災害復興支援ボランティア委員会は、自然災害等が発生したとき、大学として迅速かつ円滑に復興支援に係るボランティア活動が遂行できるよう、次の事項について審議することを職務としています。

- (1) 復興支援に係るボランティア活動の実施の有無に関する事項
- (2) 復興支援に係るボランティア活動の内容とその範囲に関する事項
- (3) 復興支援に係るボランティア活動に要する経費等に関する事項
- (4) その他復興支援に係るボランティア活動に必要な事項

【構成員等】

この委員会は、学長のリーダーシップの下、次のメンバーをもって構成する。

- (1) 学長が指名する副学長 1名
- (2) 学長が指名する学部長 若干名
- (3) 学生部長
- (4) ボランティア・NPO活動センター長
- (5) ボランティア・NPO活動センター副センター長
- (6) ボランティア・NPO活動センター事務部長
- (7) 学長が指名する学内の学識経験者 若干名

【事務局】

本件に関する事務局は、ボランティア・NPO活動センター事務局が担います。事務局では、自然災

害等の発災に伴う被災状況等について、必要に応じて現地を訪問するなどして情報収集を行い、災害復興支援ボランティア委員会に情報提供を行います。また、復興支援活動を行うにあたり、被災地との連絡調整などの役割を担うことになります。

2022年度委員（学長指名委員）

2022年度の災害復興支援ボランティア委員会委員のうち学長が指名する委員は、次のとおりです。

- ・学長が指名する副学長
：安藤 徹 副学長（継続）
- ・学長が指名する学部長
：小峯 敦 経済学部長（新規）
：長谷川 岳史 経営学部長（継続）
- ・学長が指名する学識経験者
：深尾 昌峰 政策学部教授（新規）

2022年度の主な議案

◆第1回委員会（2022年6月6日開催）

【報告事項】

- ・「災害発生時の本学（深草）及び周辺の被災者支援ボランティア活動」のあり方の検討について

【審議事項】

- ・2022年度の東日本大震災被災地における復興支援ボランティア活動について企画を提案し承認される。

◆第2回委員会（2022年10月21日開催）

【報告事項】

- ・2022年度の東日本大震災被災地における復興支援ボランティア活動の実施報告をした。

【審議事項】

- ・本学（深草）における災害発生時の避難所等開設・運営等に関する検討について、大学に対して検討体制整備を提案。関係部局との調整や論点の整理が必要として継続審議となる。

◆第3回委員会（2023年3月9日開催）

【審議事項】

- ・避難所等の提供側としての課題を検討するためのワーキンググループ設置について、前回の継続審議となったことを踏まえて、再度提案し承認される。
- ・2023年度の東日本大震災被災地における復興支援ボランティア活動について企画を提案し承認される。

〈報告者：吉貞 正流〉

事業名	2022年度 東日本大震災被災地域でのボランティア活動
実施日程	2022年8月30日（火）～年9月3日（土）
実施主体/運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	学生19名（20名で実施予定が直前に1名キャンセル）、コーディネーター3名
参加者名	早川歩伽（文学4） 西川 洸（理工4） 内海そよか（法学4） 竹内祐人（法学4） 阿相瑞己（文学3） 菊野 聖（文学3） 山添有衣奈（法学部3） 赤沢彩花（社会3） 上田七生（社会3） 福留太陽（社会3） 青木勇斗（法学2） 榎 海斗（法学2） 小田 仁（法学2） 秋本美紅（国際2） 市場美季（国際2） 李 冠霖（国際2） 三枝亜伽莉（農学2） 浅野郁真（文学1） 上前 泰（先理1）

1. 概要

3年ぶりの宮城県での活動は、コロナ禍であることを考慮し、地元の方々との交流は出来ませんでした。ボランティア活動として、雄勝ローズファクトリーガーデンの整備活動と石巻南浜復興祈念公園で行われている「命の杜づくり」に参加し、植樹活動を行いました。

ボランティア活動の他にも「災害」について学び、「防災」について考える機会として、一般社団法人雄勝花物語による防災教育を受講した他、公益社団法人3.11みらいサポートのスタッフの方に、南浜門脇ツアーとMEET門脇を案内していただきました。また震災遺構門脇小学校と大川小学校及び長面地区の案内もしていただきました。今回は、女川町に宿泊していたこともあり、女川町観光協会のスタッフの方から、女川町の震災時の様子や復興に向けた取り組みについて話していただきました。

活動の終了後は、必ずふりかえりの時間を設け、それぞれの気づきや学びを共有する時間を作り、学びを深めるようにしました。



2. 活動スケジュール

(1) 事前説明会

8月24日（水）10時00分～12時00分

深草キャンパス 21号館401教室

- ・プログラム詳細を説明
- ・参加学生の自己紹介
- ・訪問する地域の説明 等

(2) 実際のプログラム

○8月30日（火）【1日目】

- ・8時に深草キャンパスをバスで出発し、京都駅を

経由した後、宮城県石巻市へ。車中ではアイスブレイクやチームビルディングを兼ねて参加者同士の自己紹介や他己紹介、クイズ大会等を行いながらチーム作りを行いました。

○8月31日(水)【2日目】

- ・(午前) 石巻市雄勝町において、雄勝ローズファクトリーガーデンで防災教育を受講し、災害時に大切な行動について学びました。座学だけではなく、雄勝小学校跡地で当時の避難経路の一部をたどる体験をしました。
- ・(午後) ガーデンの整備をするために、石運びと石積み作業をしました。

○9月1日(木)【3日目】

- ・石巻市の南浜津波復興祈念公園周辺での活動3.11みらいサポート(現:3.11メモリアルネットワーク)の高橋さんに公園や門脇小学校を案内していただきました。高橋さんは、未来を創っていく学生たちに災害時にはとにかく『避難』が大切であるというお話を繰り返ししてくださいました。震災遺構である門脇小学校では、津波火災の凄まじさを知りました。学生たちは、いかに自分たちが震災について知らなかったのかということに気づき、自分たちが周囲に伝えることの大切さに気づいたようでした。
- ・南浜津波復興祈念公園での植樹活動では、200本を超える多様な苗木を植えました。この地に新しい命をつなぐ活動でした。

○9月2日(金)【4日目】

- ・(午前) 女川観光協会の方に、女川の『復幸』の特徴についての話を伺った後、女川町内のフィールドワークをしました。
- ・(午後) 大川伝承の会の高橋さんの案内で、震災遺構 大川小学校を見学し、震災当時に起こったことや、裁判のこと、ご遺族の想いなどについてお話を伺いました。
- ・長面地区を元地元住民の案内で視察し、人が住めなくなった地域に建設された防潮堤に登り、そこから見える景色を見ながら、お話を伺いました。
- ・別場所に移動し、3日間のフィールドワークやボランティア活動のふりかえりをおこないました。

○9月3日(土)【5日目】

- ・8時45分頃に深草キャンパスに到着

日 時	スケジュール
8/30 (火)	深草キャンパス発 京都駅八条口団体バス乗り場発 石巻市内着
8/31 (水)	(午前) 雄勝ローズファクトリーガーデンで防災教育道の駅 硯上の里おがつで昼食 (午後) 雄勝ローズファクトリーガーデンの整備活動 ふりかえり
9/1 (木)	(午前) 南浜・門脇ツアー(フィールドワーク) (午後) 門脇小学校見学 石巻南浜津波復興祈念公園内で植樹 ふりかえり
9/2 (金)	(午前) 女川町のフィールドワーク 自由時間(昼食含む) (午後) 震災遺構 大川小学校見学、長面地区視察 ふりかえり 上品の郷(夕食・入浴) 上品の郷 発(夜行)
9/3 (土)	京都駅八条口着 深草キャンパス着

(3) 感染予防対策として、次の①～④を実施した。

- ①活動期間中の検温(毎日)
- ②手指の消毒、マスク着用、黙食等を徹底
- ③出発の前日に、全員抗原検査を実施
- ④宿泊をシングル又は、ツインルームで対応



3. 参加者の声

●参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋

- ・1日1日の内容がとても濃く、充実しており、1日の終わりには、あまりにも様々な情報に頭で整理することが追いつかなくなるほどでした。3日間、様々な場所を訪れ、人に出会い、体験し、本当に多くの学びを得ることができました。学んだことを語り合い、一緒に考えることのできる仲間がいたことも今回の活動ではとてもよかったと思っています。
- ・今まで東日本大震災については、テレビや震災の特集などで取り上げられているものを見ただけでした。しかし、今回のボランティアツアーで地震や津波といったものがもたらす自然災害の怖さや、いつか必ず自分の身にも起こるという危機

感を、講話や震災遺構から学ぶことができました。また、「震災による悲惨な出来事に悲しみを感ずる」のではなく、そこから未来の備えとしてどのように自分の身を守るものにしていくのか、どうすれば周りの人を守ることができるのかを考える機会を得られたことにも、このプログラムに参加できてよかったと感じました。

4. コーディネーター所感

このプログラムは、これまでは定員を大幅に超える応募がある人気の活動でした。今回、3年のプランを経た募集で、学生の反応が心配でしたが、定員を大幅に超える申込があり、このテーマはまだ関心が高いことが分かりました。天候にも恵まれ、3年ぶりの活動再開を歓迎してくれているようでした。

これまではプログラムの中で、出来るだけ地元の人と触れ合える機会を設けながら実施していましたが、まだコロナ禍が続いていることもあり、今回はそういったことは出来るだけ避け、ガーデンの整備や今年度の新しい試みとして、新しく出来た南浜津波復興祈念公園での植樹活動に取り組みました。命の杜として、今後どのように育っていくのか、学生

と共に見守りたいです。

また、大川小学校区であった長面地区の視察も行い、人が居住することのできない地域を囲む巨大な防潮堤はどういう意味があるのか、建設に至る経緯などについてもお話を聞き、震災からの復興に至る道程に絡む様々な矛盾についても考えました。

防災教育では、雄勝花物語で実施されているプログラム以外にも、整備されたばかりの震災遺構や施設の見学を行いました。

地元の皆さんとの交流が出来なかったのはとても残念でしたが、今まで以上に学びの部分は充実できたのではないかと考えています。1日の中で得る情報が多く、学生は混乱したかもしれません。しかし、活動期間中に聞いたお話は、深く学生の心に響いており、活動後に行うふりかえりで語られる学生の言葉は、日を追うごとに中身の濃いものになりました。気持ちが整った人から、語り始めるスタイルで実施し、語り合い、聴き合う中で、より学びが深まりました。これからの未来につながる学びになったと思っています。

〈報告者：竹田 純子

(深草キャンパス コーディネーター)〉

事業名	2022年度 東日本大震災被災地域でのボランティア活動報告会
実施日時	2022年10月20日（木）17時45分～19時15分
実施場所	深草キャンパス21号館401教室／対面とオンラインのハイブリッド形式
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	46名（対面・オンライン合計）

1. 概要

深草キャンパスからオンラインのハイブリッド形式で配信を行いながら、以下のとおり報告会を開催しました。

- ①竹田コーディネーターより、これまで取り組んだ東日本大震災復興支援活動と今回の活動概要について説明を行いました。
- ②今回の活動をまとめた動画の上映
- ③参加者各自が選んだ活動中の写真1枚をスクリーンに映しながら、参加しようと思ったきっかけ、活動を通じた気づきや想いについて語りました。
- ④石巻市でお世話になった3.11メモリアルネット

ワークの藤間さんと、雄勝花物語の徳水さんがオンラインで参加し、学生達の報告を聞いたコメント
⑤筒井センター長からの挨拶



2. ボランティアに参加した学生の声

- ・現地に行って被災された方々の声を聞かなければ、知ることができなかつた真実や学びが本当に多くありました。自然と共に生きる上での備え、命の尊さ、復興とは何か。学びと共に多くの問題意識が次から次へと芽生える5日間でした。このボランティア活動に参加していなければ、災害による被害をここまで自分事として捉えることはなかったように感じます。私は、「心の備え」と「伝える」ことで震災を風化させず、子どもの命を守る大人になります。
- ・自分から「避難しよう」と声を掛けられる人になりたい。
- ・「もしもは必ず来る」から備えをしておきたいし、皆さんにも備えて欲しい。
- ・自分は震災について何も知らないということを実感できる3日間だった。正しい知識を知って、正しい行動をとることの必要性を痛感した。
- ・実際行ってみることで、自分の認識が甘かったことに気づくことが出来た。これからの行動につながって行くと思う。ぜひ、たくさんの人に行ってもらいたい。

3. 参加者の声

- 参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋
様々なことを考えさせられ、新たな発見もいくつかありました。興味深かったことが何点もあり、まず1点目に、復興とは何なのかということを考えま

した。震災以前の街の様子と、現在の様子が映された写真がありました。そこで私は、震災後（現在）の草原しかない様子を見て、きれいだと思います。ですが、そこで起こったことを考えると、決してそれはきれいなものではないはずです。住民だった人びとがそれを見て何を思うのかという点についても気になります。そしてそこから、復興とはどういうことを指すのかと疑問に思いました。草原の状態を復興と呼ぶのか、がれきなどが無くなれば復興なのか、また、もう一度街になれば復興なのか。どうなることが正しい復興なのか知りたいです。

もう1点は、今日聞いた震災中の行動、震災後の活動が龍谷大学の自利利他の精神に似ていると思ったことです。自分が助かるための行動だけでなく、家族や他人も「逃げよう」といい、助け合える心、それが大切だと感じました。改めて、本日は貴重なお話をありがとうございました。

4. コーディネーター所感

学生達それぞれの真摯な想いが参加者に伝わったので、参加者アンケートなどにも熱心にコメントを書いてくれる方が多かったのだと思います。また、石巻市からもオンラインで徳水さんや藤間さんに参加していただけたことで、とても場が締まりましたし、参加後の学生達の変化をお伝え出来たことは良かったのではないかと感じています。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉